

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2025
Jtitle	日本語と日本語教育 No.53 (2025. 3) ,p.94- 94
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20250300-0094

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

今号には論文2編、調査報告2編を掲載します。

村田年先生には、2025年3月末をもって停年にて御退職のはこびとなりました。先生が本センターの基礎固めに御尽力され、本塾日本語教育の発展のためにまさに身を粉にして奮迅されて来られたことは、だれもが知るところです。何時如何なる時にも学生の教育を最優先にお考えになり、必ずしも万全とは言えない御体調を押して学生と向き合って来られた先生を敬し、慕いながら巣立った学生は数え尽くせないほどだと想像しています。もちろん職を同じうする教員一同にとっても、公正にして厳密、冷静にして堅実な御判断には常に敬服し、社会と教育の在り方についての慧眼には常に頼もしさを感じてきました。本センターを中心として十年にわたって展開された本塾文学研究科と、ドイツのマルティンルター大学ハレ・ヴィッテンベルクのダブルディグリー制度も、先生の御尽力なくしてはありえなかった金字塔でした。時は流れ、先生のお教えを受けた学生たちはやがて世界のどこかで大輪の花を咲かせることでしょう。

学生と言わず、教員と言わず、村田先生がこれまで積み上げて来られた財産をさらに高く積み上げられるようにすることが後進の責務であることを痛感していますが、そのハードルはなかなか高いものです。御退職にともない紀要委員を引き継いだ私は、半歩ずつでも先に進めるように努めたいと思いを新たにしています。

村田先生には今後ますますの御清栄を願ってやみません。

Y.K